



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨Y.M.C.A.青少年センター
〒400-0032 TEL.055-235-8543
FAX055-235-8653

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部長主題
甲府21会長主題

Our Future Begins Today. 私たちの未来は、今日より始まる
Respect Y's Movement ワイズ運動を尊重しよう
明日に向かって、今日働こう
あずさ部は賜物の宝庫、もっと生かそうぜ！
楽しい、奉仕のしがいあるクラブにしよう

2016
12月号

2016年クリスマス例会

日時 2016年12月11日(日) 17:00 ~
会場 YMCAセンター
開会点鐘 松村禎夫会長
<第一部> 礼拝 (プログラムは別紙)
司会 相川貴宏メン 奏楽 古屋律子メソ
前奏
讃美歌 21・264番
聖書朗読・祈祷
クリスマスメッセージ
「人の思いを超えた出来事」
日本基督教団韮崎教会 小島仰太 牧師
讃美歌・献金 21・258番
祝 禱
<第二部> 例会 司会 荻野清メン
ワイズソング、ワイズの信条
会長挨拶 松村禎夫会長
ゲスト紹介 松村禎夫会長
Happyバースデー
アトラクション フルートとピアノ演奏
布能美樹さん
宮川真理菜さん
演奏者紹介 野々垣健五メン
祝会 司会 廣瀬健メン
食前の祈り
ワイズディナー
オークション進行：廣瀬健メン、葉袋勝メン
諸報告、YMCAの歌
閉会点鐘 松村禎夫会長

★今月の聖句★

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

マタイによる福音書1章18～25節
小島仰太牧師 選

●●●● 今後の予定 ●●●●

○12月20日(火) 第2例会	YMCAセンター～若奴	18時30分～
○1月10日(火) 新年合同例会	談露館	18時45分～
○1月25日(水) 第2例会	YMCAセンター～若奴	18時30分～

2016-2017年度 12月

会長挨拶

松村禎夫会長

今年も残り少なくなりました。爺くさいかも知れませんが、時の過ぎるのが早く感じられる今日この頃です。先月は、CS活動としてYMCAバザーと障害者フライングディスク競技大会を、みなさんと共に楽しく行うことができました。特に、バザーでは今回新企画としてお菓子の沢山入った福袋を100袋用意しましたが、すぐに完売となり、収益に大きく寄与しました。また、障害者フライングディスク競技大会は私としては初めての参加で、当クラブの協賛金で作ったメダルを障害者150名の競技者全員（1グループ5、6人ずつ）に贈呈するたびに、計60回以上も万歳三唱する経験をしました。メダルを授与した時の競技者の嬉しそうな顔を60回も見る楽しいひと時でした。

ところで、今月は「EMC=MC」強調月間となっています。皆さんはこの意味をご存知でしょうか？先月も申し上げましたが、ベテラン先輩会員の方へはご承知かと思いますが、これはロースタで調べたら、EMCは（=Extension Membership & Conservation, クラブ拡張・会員増強・維持管理）でMCも（=Membership & Conservation, 会員増強・維持管理）、ということで要するに会員を増やし、退会者や休会者が出ないように頑張らしましょう、ということですね。ここ数カ月メールに入ってくる他のクラブの情報でクラブ廃止とか、高齢化による会員減少とかの情報に接すると、これは人ごとではないな、と思います。本年度の当クラブの主題である「楽しい、奉仕がいのあるクラブ」をもっともっと実のあるものにしたいと、改めて思っています。

そういう意味では、先月のバザー参加やフライングディスク大会への支援活動は大変良かったと思っています。さらに、今月のクリスマス例会や来月の正月合同例会、4月頃を予定としている草津クラブとの合同例会などを充実して、楽しんでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

11月例会報告

寺田喜長書記

日時 2016年11月1日（火） 19:00
会場 山梨YMCA会館
出席者 相川、饗場、稲垣、荻野、鎌田、功刀、
駒田、佐藤、清籐、茅野、寺田、奈良田、
野々垣、廣瀬、古屋、松村（禎）、松村（豪）
葉袋、山縣、後藤、赤根（21名）
ゲスト 小山久恵様（卓話者）、小山憲彦氏、
宮内友哉氏、秋山EMC事業主査、（4名）
司会 山縣メン、ひと言、奈良田メン
ペンリレー、松村（豪）メン



2名の入会式とゲストの小山久恵様の卓話の例会となり、いつもより張りつめた雰囲気の例会が始まりました。今月の聖句を選ばれた奈良田メンは、普段聖書





を開く機会もなく困惑していましたが、仕事上の研修時に宿泊したホテルの部屋に備えてある聖書を開き研修内容に通じる聖句を見つけたとの事、その閃きに感嘆！ 今月の誕生月にあたる廣瀬メンは若者の代表？で今後此のクラブを担う1人であり、その強い思いを誕生月コメントで示してくださいました。入会式はあずさ部EMC秋山主査、あずさ部書記小山メン、宮内次次期東日本区理事の方々の立会を頂き、松村会長の進行にて後藤哲夫氏、赤根 学氏の2名を甲府21 ワイズメンとしてお迎えする事が出来ました。最年少者入会にて少しはクラブ平均年齢が若返ったでしょうか。入会式を行うことは会長にとって貴重な経験です。これからの会長が皆、入会式を進行する機会が有ることを願います。ワイズディナーでの歓談の後、昨年、BF代表でオーストラリアを訪問された小山久恵メン（あずさ部書記、東京サンライズ）の報告を拝聴致しました。地図上では大陸のごく一部の地域のクラブ訪問でしたが訪問地間が数百キロも離れていて大陸の大きさを実感、例会形式は食事をしながら、お酒を飲みながら、開会点鐘なし等が有り、地域によってはメン、メネット別々のクラブで活動していたり、あるクラブでは地元の方々向けにイベントをしたりしてファンドを得たりしている。メンバー年齢は高く、試験的にフィジー島のクラブは学生が会員で例会は無くメール



のやり取りでの活動で若い会員の確保を試みている。ジーロンで地区大会に参加したが総勢 50 名ほどの小規模な大会であった等、国が異なればクラブ形態が異なる興味深いお話を拝聴する事が出来ました。ありがとうございました。謝礼をニコニコへ献金くださいました。感謝。諸報告は、故中島メン追悼礼拝への協力の再確認、第二例会開催日変更を連絡、フライングディスク大会協力者を確認して閉会、小山御夫妻、宮内メンとの2次会へと流れました。

第 56 回 山梨 Y M C A バザー報告

野々垣健五メン

第56回・山梨YMCAバザー（以下、「バザー」といいます。）を終えて

今年の「バザー」は第56回目となり、天候にも恵まれ開催されました。午前9時に古屋秀樹バザー委員長挨拶に始まり、我々「甲府21」はメン・メネットと共に、多くのメンバーが参加しました。昨年迄の「甲





府21」の戦果は芳しくなく、パーキング整理にて力を発揮するグループでした。今年は金丸三郎氏の尽力もあり、パーキングは余裕を持てる幸運な年でもありました。又、この会館で開催出来る「バザー」は今年を入れて3回位しかない事も、順次認識されているところです。本年は「メンズ」も一念発起、松村禎夫会長、佐藤次年度会長の発言もあり、「何かやろう」という事になって、非常に短い準備期間でしたが会館の入口を確保していただき、正味は4千円相当の菓子大福袋を売価千円にて100袋を用意する事が出来ました。又、農林高校のご協力によるパンジー、ビオラの鉢植えを240鉢と、更に、11月1日に入会したばかりの赤根学會員のプレゼントのポインセチアも30鉢加えて用意出来ました。そして何よりも入口付近がヘリウム風船と花々で華やかに彩られて、「山梨YMCAのイベントだ!!」とアピールするには充分に効果的でした。入口にはこれ等に綿菓子を加え、更に「ぶどうの木」雨宮姉からのプレゼントの葉付き大根が並んで、あっという間に大根40本がさばけました。又、2階にてのメネットによるコーヒー・ケーキセットのコーナーは1日中、お客様で賑わいました。3階の体育館においては定番の甲府クラブ主催のビックリ市、その隣にて



「甲府21」が「古本屋」を開いていました。この成績が意外に良いのです。

その結果、

- ① コーヒー・ケーキセット (44,220円)
- ② 古本 (11,850円)
- ③ 綿菓子・大根 (12,125円)
- ④ 菓子大福袋 (70,000円)
- ⑤ 鉢植え (23,022円)

合計 (161,217円) となりました。(昨年比200%) 山梨YMCAとしては1,070千円余の成績となり、昨年比132%の成績となりました。ご協力いただいた多くの方々、提供者の方々へ感謝し、この資金の有効活用を願います。

来年に向けては、

- ① 6月のチャリティーラン終了後に準備会をスタートしていく事。
- ② 目標金額を2,000千円位にする事。
- ③ 甲府21は500千円を目指そうと、筆者は勝手に考えています。

その為には、念入りの事前準備、広報(コマーシャル)を有効に使っていく事等が鍵となります。皆様、どうぞ宜しくお願い!!



草津クラブ例会参加報告

寺田喜長メン

11月15日(火)、草津クラブの例会に、松村会長、野々垣副会長、奈良田DBC委員長、寺田が出席し、来春の合同例会開催日程の打ち合わせを行いました。あいにくの曇り空の為、道中の信濃路の紅葉がくすんでいたのは残念、京都で昼食後、嵐山の臨濟宗天龍寺曹源池の紅葉を駆け足で見学し、草津へ向かいました、草津クラブ例会場のホテルに18:00に到着、例会開始1時間前でしたが、池田メン、一井メン、粟津メンが会場設営をされたおり、歓待を受けました。「定例会」と印刷された大きな横断幕が正面に掲示され、バナーも設置してあり、大切な例会ですぞとの雰囲気を出していました。ホテルの会議室を使用し、夕食もホテルにお願いしているのでしょうか、会費2,000円。顔馴染みのメンバーが11名、ゲストを含め全員名札装着し例会開始、先ず、ワイズディナーで和やかに談笑後、



開会点鐘、ワイズソングの後に、「点呼」があり司会者が出席者の名前を順次読み

上げると大きな声で返事をします。我々も仲間に入れていただき大きな声で「ハイ」と答えると出席しているのだと意識を持つことが出来ました。中山草津クラブ会長より歓迎の挨拶を頂きました。ブリテンは未だ発刊されてなく例会レジメと11月例会議事録が配布され例会が進められます。「会務報告」にて各委員会の



代表者が予定や事業報告を行い出席者の7割ぐらいのメンが何らかの報告、意見を述べますので全員で例会を作り上げる雰囲気でした。会員年齢はYMCA国宗主事の26歳以外はご多分に漏れず構成年齢は高いとの事。ファンド事業では、十勝ジャガイモ、カボチャを約500箱販売したとの報告、CS活動報告は、主に大脇メンが、「草津町つくり運営会議」「NPO琵琶湖ネット草津事業」「災害ボランティアネットワーク事業」に参加されている事が報告されましたが、クラブ全体でどんな関わりをされているかは聞き漏らしました。

さて、今回の訪問目的の合同例会について日程調整を行いました。4月8~9日が草津クラブの希望との提案があり、信玄公祭りと重なるが開催日と決めました。奈良田メンが山梨の見どころをいくつか紹介、宣伝をし、先方の希望も取り入れて計画する旨の了承を得て例会を辞しました。他クラブ例会への出席は良い経験に成ると思いました。

中島竹男さんを偲んで

■ 弔辞(追悼礼拝)

功刀弘メン

中島竹男さんは昨年8月9日に67歳の若さで天に召されました。そのご遺志によりご遺体は翌日に山梨大学医学部に献体されました、先月26日に大学で慰霊祭が執り行われて今ここ・高校生時代から通いなれた甲府教会に戻ってこられました。お姉さまの言葉では近くの三枝佐枝子さまの自宅での聖書の学ぶ会に感銘して、日曜日には病弱の父を差し置いても甲府教会に通っていたとのこと。そして今日は当時からの多くの親しい仲間にもまれて追悼礼拝を守っています。私は26年前に発足した甲府21ワイズメンズクラブに最初から仲間として竹男さんとの交わりが深まりました。私がこのクラブに参加したのは教会員の諸先輩の強い



勧めからで開業を控えていたのでそのためにもとの想いでした。中島さんはその活動ぶりから私とは大違いでした。中島さんは15歳の時に洗礼を授けられ、高校生の時代からの多くの教会員との交わりがありました。

本日ここにハイYのOBが大勢集まっておられます。私は高校時代を東京で過ごしていたので当時の体験は共有できていません。それで私は40年ほど前のハイY活動の様子を当時の記録から改めて読んでみました。1950年から始まった高校YMCAのワークキャンプは県下の普通高校、工業高校、商業高校そして私立の高校生が多い年は100名から150名の参加があったことを知りました。「山梨ハイY活動40年の足跡」を読むとここにおられる方々の共通の思いがそこに書かれています。改めて竹男さんの思いを熱く共有することができました。中島さんはそのまとめ「危機の時代のハイYとワークキャンプの衰退」と題して箭本弘志さんとこの活動の興隆期に参加し最後の1967年に終了するまでの関わりとその責任から中嶋さんらしい言葉で次のように語っておられます。「65年ごろから再生への苦闘が試みられたんですが少し遅きに失しました。——先へ先へ前ばかり見ていれば良かった時代は、気がつくとも理念とか理想とかの重苦しいものはきれいさっぱり脱ぎ捨てて、金万能社会、エコノミックアニマルと世界中から批判される国になっていました。——時代に対して方向性を失った時、社会参加の運動は消滅するのは必然でしょうか。——」

1990年から発足した甲府21ワイズメンズクラブに最初から参加した竹男さんの想いはハイYの総括で述



べていることの延長線上にあったことを今しみじみと思っています。ワイズの理想とする青少年の先頭に立ってYMCA活動に参加して社会にあって青少年や弱い者への奉仕活動をしてきました。それは生きてきたことの証として地の塩となる働きでした。ワイズメンの活動は細かい事務的な事柄や機関紙であるブリテンの編集と発行は勿論、YMCAのバザー、チャリティーラン、フクロウキャンプ、フライングディスクそしてつばみグループの自宅を開放しての餅つき会などまた、育精福祉センターへの協力などに熱心に参加されていました。また1999年に始まったJ1、J2サッカーへの肩入れも山梨という弱小県における地域で支えるスポーツへの思い入れも特別のものがありません。J2において二年連続の最下位にその存続も危ぶまれる時期にはナナサワ印刷でそのチラシを無償で印刷するなど、山梨県、甲府市という弱小都市が持ちこたえるのは困難なヴァンフォーレ甲府をその成績に関わらず応援し続けていました。またワイズの仲間が楽しみにしていた年末の餅つき大会も自宅を開放してワイズ以外の仲間も呼びかけて2年前まで続けていたこと。15歳の少年期に受洗したその精神がYMCAの活動の中に世の光として証していたことが分かります。

私は2年前の11月末の県下の知的に遅れのある方々の施設入所者を励まし楽しみにしているフライングディスクの応援の時に一緒にいました。その帰途駐車場まで歩いて戻るときに千香さんの腰痛の件をさり気なく尋ねると「12月には東京の国立に連れて行く」とのひとことがありました。

12月の千香さんの入院を控え中島さん自身も一年遅れの健康診断を受けたところ、すい臓がんの末期であることがこの時に判明しました。中島さんは早読みの読書家であり先に述べたように置かれた状況とそれへの対処を多方面の知識を基にご自分の考えで行動する方です。ハイYの総括をもう一度読み直してみましたが、竹男さんらしく突然の病気の発症にもベッドに訪ねた際には多くの資料を見せながらできるだけの情報



報を入手して「2年間は頑張ってみます、このような考えもあるけどどう思いますか」と私にも資料を見せながら判断の難しい質問を投げかけ意見を求められました。末期であり難治性のすい臓がんがすでに内臓に広く転移している状況で医師からはかなりの期限を限られている状況の下でも、それまで続けていた早朝の散歩など日課をこなしながらの覚悟の言葉でした。私は専門医でないの所以对しての適切な意見を述べることはできませんでした。ただ強い精神力を持った中島さんの免疫力、自己治癒力の回復を祈るばかりでした。

入院して間もない12月17日に病室を訪ねたとき、黄疸が目にくすりと認められ容易でない事態と思いましたが、12月末に病院での胆汁を流れるステントをかなりの苦痛に耐えて挿入出来た後は黄疸も解消して食欲も戻ったようでした。3月6日のヴァンフォーレの開幕戦に千香さんが小瀬のグランド入口で腰痛を抑えて切符切りに頑張っておられるのを見て中島さんの回復と小康状態にあることを想像しました。そして4月26日には久しぶりに教会に出席されました。「ナナサワ印刷の残務の仕事を終えて歩いてきた、松木田牧師に会って祈ってもらった」と。この頃でしょうか、満開の桜の木の下でのこの写真にはまだ頑張るとの気持が顔に見られ、回復ぶりが窺えます。翌5月3日にも教会に出席するとのことでしたので寺田さんに電話しました。中島さんは前日の発熱が朝には下がったので出席して教会で寺田さんにも会えてよかったと喜んでくれました。



しかしその後の抗がん剤の治療が始まると食欲を無くしてかなりの消耗が見られました。7月に入院してからは抗がん剤と放射線治療による全身の消耗から25日に訪ねた時は食欲を無くしそれまでの頑張りぬく様子からすべての力が抜けているようにみられました。竹男さんから初めて弱気の言葉を聴くことになって仕舞いました。千香さんも放射線治療が良かったのかとの疑問も尋ねられました。その後訪ねた方の様子からもすでに話しかけてもほとんど反応がなくご本人の意識も朦朧としていたと伺い、8月9日早朝に天に召されました。

医師としての想いを述べましたが、思いたすと情緒的には様々なことが浮かんできます。相生に嫁いでいる私の次女に訃報を伝えると大(ゆたか)君のお父さんと電話の向こうで叫びました。ゆたか君は次女が高校生になった1983年、洗礼を受けて初めてCSの担当になった年の7月30日ですか、プールで亡くなられたのです。ゆたか君のご遺骨は甲府教会の納骨堂のロッカーに収められ竹男さんもそこへ収められることを希望していると伺っています。長女一家の中島宅での餅つき、私の学会誌のための小冊子など。

先月10月の聖日礼拝で松木田牧師のお説教があり、その中でイエス様が嘆き悲しみの中にある姉妹の前で弟ラザロが死者の中から復活した出来事を話されイエスの言葉「もし信じるなら神の栄光が見られるではないか」と感動的にさとされました。竹男さんは亡くなられた翌日、葬儀をする間もなく竹男さんの遺志によってその肉体は医学教育のためと山梨大学に献体されました。大学の慰霊式典でも教員や看護師そして学生たちの献花と学生代表の感謝の言葉を聴きました。このことから竹男さんの強い意志が医学の世界にいま生かされていることを覚え、いまここに帰ってきた竹男さんを囲み皆で温かく迎えています。そのことを覚えつつ、遺された千香さんと未奈(みな)さん、陽(あきら)さん、星(せい)さんご一家の上に神さまの慰めとお力付けがありますように祈って私の言葉といた



します。

2016年11月12日

甲府21ワイズメンズクラブ初代会長 功刀 弘

■会長挨拶（偲ぶ会） 松村禎夫会長

中島竹男君と初めて会ったのは、瑞垣山の麓で行われた高校生のワークキャンプに、1964年に私が大学生でキャンプリーダーとして参加した時です。その時、竹男君は、高校二年生で「トッチャン坊や」と呼ばれており、第三班の班長として責任ある立場で活躍していたのをよく覚えています。また、その二年後のワークキャンプでも同じ班のキャンプで一緒になりました。その時は、彼は大学一年生のリーダーとして、年齢が近い高校生のキャンパーに親しまれて、高校生に交じって活躍していたのを今でも思い出します。

竹男君は、のちに、これらのワークキャンプについて、『神に対する責任と、人に対する責任を果たす“証の場”だった』と語っています。この想いが、1990年に、甲府21ワイズメンズクラブ創立時において、彼が主要メンバーに加わった大きな理由であった、と私は思っています。それ以後25年間に渡って、クラブの中核メンバーとしてクラブ運営を支えてくれ、1998年度には会長の任務を担って下さいました。

ところで、2000年の秋に、私は山梨にUターンして小淵沢に住むようになりました。そしてすぐに甲府21ワイズメンズクラブに入会し、その年のクリスマス例会に出席しました。その時、その例会に、私の幼馴染の七沢千香さんが、中島君の奥様として出席していたのにはびっくりしました。というのは、千香さんは、確かワークキャンプには一度も参加したことがなかったはずなのに、どこで・・・と思ったからです。

千香さんは私の同級生で、私が小学校5年生の時、東京から甲府に転居した家の隣に住んでおり、しかも春日小学校では同じクラスで二年間ご一緒の方です。その千香さんが五歳年下の竹男君を支えて、家業の印刷業やワイズ活動で、内助の功をなしていたことに感慨深いものを覚えています。クラブに入会してからは、中島ご夫妻とはワイズ活動では時々一緒にさせていただきました。しかし、私が八ヶ岳南麓の小淵沢という僻地に住んでいたため、クラブ例会にはそこから、甲府への遠距離参加でした。そのため、ワイズ活動は半身の姿勢でかなり無責任に関わっていました。しかし、今年度、会長の役目を担うことになって、過去のクラブ運営やその活動を色々調べていたら、毎月のブリテンの印刷やチャリティーラン等の各種イベントの準備、年末恒例の中島家での餅つき大会の主催、等において、中島君の果たしてきた役割の大きさを改め



て強く認識させられています。このことは、偲ぶ会に出席したワイズメンやメネットの方々も、全く同じ思いだと思います。

甲府教会での追悼礼拝と談露館での偲ぶ会の計画立案から受付などの準備まで、その思いが一つとなって、中島君を偲ぶ会にあのように多くの皆さまをお迎え出来たことを、心から感謝しています。

偲ぶ会では、最近の甲府21ワイズメンズクラブの活動状況を紹介したパンフレットを配布しました。そこにも書きましたが、今後とも中島君の遺志を継いでいきたいと思っています。

■友人挨拶（偲ぶ会） 村上信氏

私は甲府一高ハイY‘OBの村上信です。8月の「みずがきの会」でも学生時代の中島さんとの交際について話しましたが、本日はもう少し詳しくお話ししたいと思います。

私は中島さんより幾つか年上ですが、大学に入るのをゆっくりしてしまっていたので彼とほぼ同時期に学生生活を送りました。そして、それは60年安保から70年安保へのちょうど真ただ中あたりでした。

大学では、授業料値上げ反対、産学路線共同反対、学生会館移転問題などで、ほとんど毎日クラス討論。クラス単位での学内デモが行われ、授業は実施されませんでした。やがて、全学共闘会議が組織されクラス単位から全学規模へと運動は組織化され拡大していききました。

こういった状況下で、一般学生たちの対応はおおむね次の3つのパターンに別れました。1つ目は率先して運動に係わった人（活動家、又はそれに最も近い人）で、40人のクラスで2~3人です。2つ目はいわゆるシンパ=賛同者で、クラスに10人前後で、後に新宿や羽田の学外デモにも参加した人々です。ノンセクトラディカルを自負していました。3つ目はいわゆるノンポリと呼ばれた人々で、クラスの半数を占めていました。彼らの中では、目的意識を持って行動した人、例えば、司法試験の受験勉強に打ち込んだ人、自動車

の運転免許取得を目指す人などがいる一方で、毎日大学に顔を出すけれど、授業がないので仲間を募って雀荘にしけ込む人などさまざまでした。

中島さんが入学した法政大学は当時、社会学同（社会主義学生同盟）の正当を自認する中核派がヘゲモニーを握っていたので、彼も先ほどの分類の2つ目にあたるシンパとして中核派の影響を受けたと思われます。中核派は「個人より組織を」という組織論のきわめて強いセクトでした。

一方、私は社会学同解放派（社会主義青年同盟）の主張に賛同していきました。彼らの理論の中に、私はアナキズムの匂いをかぎとりました。私の卒論テーマが「民主主義」とファシズム・ナチズム関係で、その主張に関心があり支持したのでした。

中島さんが私の生活していた学生寮を訪れたときの論争の主な点は「組織優先」か「個人が先か」でした。

彼は「個人主義」では決して目標は達成できないと主張し、私は中核派の論理はいずれ全体主義ファシズムに行き着くとしか思えないと反論しました。

やがて、運動は「東大安田講堂」の“落城”、マスメディアの痛烈な暴力学生キャンペーンなどをキッカケとして潮が引くように衰退していきました。バリケードは解かれ、授業は再開し、学生たちは大学に戻っていきました。

その時、先ほど申しました3パターンの学生たちはどのような対応をしたのでしょうか。多くの活動家諸君は大学を除籍処分になりましたが、彼らは地下に潜るか、さっさと転向声明を出すなど、その行動ははっきりとしたものでした。

ノンポリと呼ばれた人々は待ってましたとばかりに大学に戻っていきました。

最も対応に苦慮したのが、たぶん、中島さんや私などのシンパの学生たちでした。本気で「大学解体論」

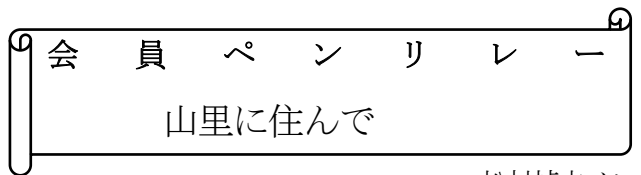
を支持してきたのですから、まじめに取り組んだ分、挫折感、空虚感に捉われ、今更大学には戻れないし、かといって現実の資格社会では、卒業しないとなかなか生きていきにくいというジレンマに陥りました。

お互い社会人になってから会う機会は何度もありました。年賀状の印刷を毎年頼んでいましたし、“4人で行うゲーム”には何度も招待しました。

しかし、学生時代やその後のことはもとより、社会人になってからの生き様について話したことはありませんでした。

「みずがきの会」の事務局の中心として、又ワイズメンの若手の中心としてご活躍の話を聞くに付け70才を目前の若さで、志し半ばで逝ってしまい残念でなりません。しかし、一番残念で悔しかったのは中島さんご本人だったのではないのでしょうか。

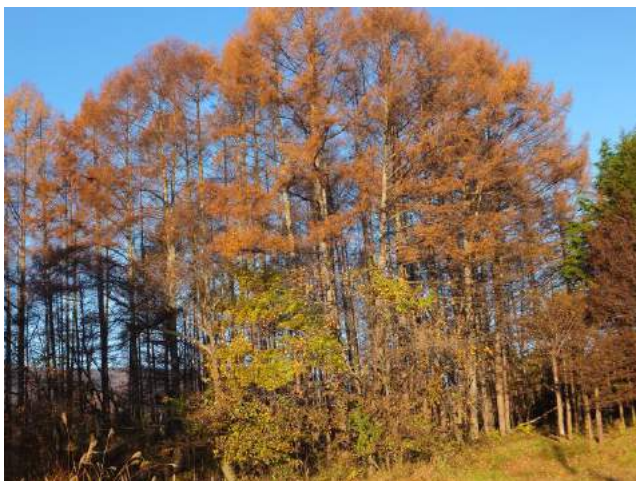
ご冥福をお祈り致します。



松村禎夫メン

北の旭川から八ヶ岳南麓の小淵沢に移住して、もう17年になる。私は生れてからこれまでに計15回移り住んでおり、ここ八ヶ岳南麓での生活が生涯で二番目に長くなった。我が陋屋のまわりには、写真のような落葉樹と常緑樹が混在した森があり、その後ろに八ヶ岳、前面に甲斐駒ヶ岳が見える。ここでは、四季折りに自然との関わりをいろいろ経験する。

一つは、我が家の周りには、鹿、猿、猪、その他の小動物とかが、かなり頻繁に出没する。特に、最近はやっと少なくなったが、鹿被害が多くあり、私の車も帰宅途中に鹿が飛び込んで来て、かなり前面が破損





された。又、すぐ近くの畑で鹿が柵の網に引っ掛かり、地元の猟銃者が目の前で射殺・解体するところを見学した。猿の軍団も時々現われ、我が家の愛犬をからかってくることも多い。猪にはまだ現物には出会わないが、すぐ近くの耕作放棄地に明らかに猪が掘った大きな穴を沢山発見したり、庭の石を動かしたり、植木鉢をひっくりかえしたりする。その他の小動物としては、ハクビシンや穴熊(?)が時々チョロッと顔を出す。

一方雪による被害もあり、この17年間に3回大雪で難儀をした。最初は、八ヶ岳南麓に移住した年に、何十年ぶりという80センチの大雪に見舞われ、出勤途中に車が側溝に嵌って、身動きできず大変な思いをしたことがあった。又、例の2014年の甲州地方の大雪の時は、我が陋屋はすっかり雪に埋まってしまい、除雪車に来るまでの5日間家にまったく閉じこめられてしまった。

このような山里生活で「林住期」を送れることにしみじみと感謝を覚える今日この頃である

障害者フライングディスク競技 関東ブロック山梨大会 兼 第15回山梨県障害者フライングディスク競技大会 参加報告

相川貴宏メン

平成28年11月20日(土)小瀬スポーツ公園山梨中銀スタジアムに於いて開催されました。主催が日本障害者フライングディスク連盟で共催が山梨県障害者フライングディスク協会という事で例年にない大がかりな大会でした。当クラブは協賛と紹介され松村会長が来賓として挨拶をされたのは初めての事でした。



12月の誕生者

- | | |
|--------|-----------|
| (メン) | 葉袋 勝 (15) |
| | 茅野 崢 (17) |
| | 饗場 裕 (20) |
| (メネット) | 寺田 岸子 (7) |



参加者は県内 120 名、県外 30 名（東京、茨木、栃木、埼玉、千葉、神奈川、長野）、競技参加者は延べ 300 名に達しました。スタッフは各県を含め 100 名近くおりスムーズに大会は運営され素晴らしいものでした。

競技種目はディスタンス（3 回投げてどれだけ遠くへ投げられるかを競う種目）とアキュラシー（標的の輪をめがけ 10 回連続投げて通過した回数を競う種目）の 2 種目です。

午前中ディスタンス、午後アキュラシーが行われました。障害を持つ方々ですので組分けは工夫されています。競技はスタッフの指導が素晴らしく、整然とかつ楽しそうでした。

表彰も昨年と違いディスタンスにはメダル、アキュラシーには記録票とお菓子が全員に贈られ喜ばれました。表彰台がグラウンドの本部席前に置かれ、参加者全員の中での表彰となり晴れ晴れとした表彰式になりました。（昨年までは準備室の片隅で皆の目に触れることはありませんでした）

我々の仕事は「バンザイ隊」です。表彰式で大声で“バンザイ”と叫ぶことです。連盟の荻安理事長が大活躍し参加 53 チームにバンザイを叫び続け喉が哽れ痛いくらいでした。競技参加者が一緒にバンザイを嬉しそうにする姿に我々も感動しました。大会がスムーズに進むことにより一休みする時間もなく立ち続け足腰にダメージが来しました。

薄曇り空でしたが寒くなく風も吹かず絶好なコンディションの下で競技が行われました。

今回はクラブからの参加者が少なく「バンザイ隊」といえども賞品を渡したり競技者を整理したりと仕事も多く忙しく立ち回りました。来年度からは若い会員を中心に多くの方の出席をお願いしたいと思います。

参加者 松村会長 功刀メン 佐藤メン 寺田メン
興水メン 相川メン、メネット
計 7 名でした。

11 月 第 2 例 会 報 告

寺田喜長書記

2016 年 11 月 22 日（火）18 時 30 分～
YMCA センター

出席者 相川、稲垣、荻野、小澤、功刀、駒田、佐藤、
茅野、寺田、奈良田、野々垣、古屋、廣瀬、
松村（禎）、松村（豪）、薬袋、山縣（17 名）

協議事項

1. クリスマス例会について

日時 2016 年 12 月 11 日（日）午後 5 時～

会場 YMCA センター

担当 礼拝司会：相川メン、奏楽：古屋メネット、
説教：小島牧師（日本基督教団 蕪崎教会）

例会司会：荻野メン

祝会司会：廣瀬メン

オークション担当：薬袋メン

アトラクション：フルーツ演奏

YMCA職員他招待者選考中
会費 メン、メネット2人=5,500円
メン1人=3,000円

* 特別例会ですので参加人員を11月30日迄に
21メールに連絡下さい。

2, 1月合同例会について

日時 2017年1月10日(火) 午後6時45分～
会場 談露館

担当 司会:稲垣メン、一言:野々垣メン
プログラムはDBC委員会にて検討中
今回は甲府21の担当、当日午後6時30分集合
会費未定だが5,000円位を予定
ゲスト卓話者等への謝礼は甲府クラブと折半、
決定後連絡し了承を得る。

3, 草津クラブとの合同例会について

日時 2017年4月8(土)～9日(日)
甲府21担当にて実施

DBC委員長の奈良田メンより先日草津クラブの例会
での打合せを踏まえ試案が提示された。富士五湖クラ
ブにも声掛けをする。

4, あずさ部役員について・・・

次年度事業主任と次次期部長推薦人事について
部長就任には会長経験がベースであるとの意見が出
された。会長がワイズに精通されている関係各位に問
い合わせる事として保留となる。

5, 次年度クラブ役員体制について

前(4)協議事項の結果待ちの為保留

6, フライングディスク大会の報告

相川メン・・・ブリテンの大会報告をご覧下さい。

7, 2月,3月,4月,例会の卓話者について・・・

候補者を推薦下さい。又は会員卓話の申し出OK

8, 12月ブリテン内容確認・・・

特集を4つ組み、12ページになる予定

9, 第2回東西日本区交流会について

日時 2017年2月4日～5日
会場、御殿場東山荘 登録料、13,000円
申し込み締切日2016年12月31日
希望者は会長に連絡する。

ワイズメンズクラブ モットー

『強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う』
『To acknowledge the duty
That accompanies every right』

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆ 山梨YMCA 通信 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

総主事 露木 淳司

新しいYMCA会館の候補地が16件を超えました。こ
れだけの物件が取り沙汰されていることに驚きと喜びを
覚えています。ご尽力いただいている皆様に感謝申し上げ
ます。

さて、今YMCAでは発達障害児のための児童デイサ
ービス事業の開設準備が本格化しています。発達に偏りが
あって、なかなか通える幼稚園が見つからない幼児や、支
援学校が終わった後の時間を有効に過ごしたい小学生の
親子のために、スキルアップトレーニングなどを提供する
事業です。皆さんにご協力いただいているチャリティーラ
ンのおかげで、拡がってきた障害児支援活動の一環でよう
やくここまで辿り着きました。無事に開設できますよう、
皆様の祈りに加えていただければ幸いです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

10, 故中島メン偲ぶ会報告とブリテン特集号について
野々垣メンより協力のお礼。

追悼文集を発行予定です。
会長が呼びかけますので投稿下さい。

11, 例会の名札着用について
メネットの分も含め1月例会までに整備する。

12, YMCAブランディング勉強会について
日時2016年11月25日(金) 18時～
YMCAセンターにて

13, 松本クラブアジア賞受賞式について
日時 2016年12月17日(土) 15時～
会場、梅風閣 参加費、5,000円

* 希望者は申し込み下さい。

11月のデータ (在籍数23名)

11月例会出席者数	21名、ゲスト4名、合計25名
11月第二例会出席者数	17名
出席率	21/23 91.30%
ニコニコ募金	第1例会 25,685円
"	第2例会 400円
"	11月合計 26,085円
"	累計 69,395円